

マクロ経済学第二 (工学院経営工学系, 開講クォーター: 4Q)

開放経済に関する基礎概念: 前半

大土井 涼二

2016 年 12 月 6 日

講義計画

- 12月6日(本日)
 - ① IS-LM モデルの復習 (つづき)
 - ② 国際収支統計について
- 12月9日
 - ① 国際収支統計について (つづき)
 - ② 為替レート
- 12月13・16日: マンデル・フレミングモデル

主要テーマ: IS-LM モデルで得られた政策含意は開放経済下でどう変化するのか?

はじめに

- 次のような主体 A さんを考える：この一年の間に
 - ① 海外製のパソコンを 20 万円で購入．
 - ② そのパソコンで有料アプリを開発 ⇒ 売上のうち 30 万円は海外からの売上
 - ③ 同時に外貨預金もしていて，円に換算して 2 万円分の利子所得
 - ④ アプリの売上のうち，10 万円分を新たに外貨預金
 - ⑤ 海外の被災地に 1 万円寄付

はじめに

平たく言うと

- このような「海外との資金の流れ」が経済全体でどのくらい起こっているのか?

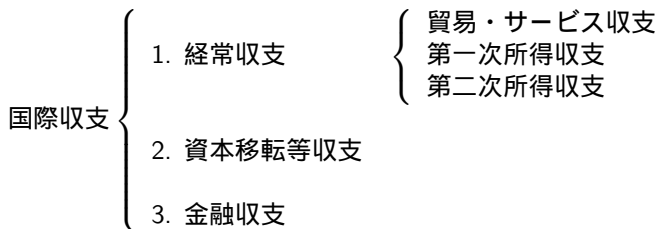
⇒ この問に答える統計資料が「国際収支統計」

- ある国の資金や財が, 外国通貨との相対的な価値としてどのくらいの価値を持つのか?

⇒ この問に答えるのが「為替レート」

国際収支統計

- IMF が策定するマニュアルに従って, 日本では財務省と日本銀行が作成
- 第 6 版マニュアル (2014.1 ~) における各収支の項目



(*) 現在, この新しいマニュアルに基づくデータは 1996 年から 2015 年 (暦年) までが財務省の「国際収支状況」から入手可能

黒字と赤字について

- 後述するように,
 - ① 経常収支や資本移転収支: 資金がネットの意味で国内に入ってくるならば「黒字」, 出ていくなれば「赤字」となるよう定義
 - ② 金融収支: 対外資産が純増するならば「黒字」, 純減するならば「赤字」となるよう定義

経常収支

経常収支

① 貿易・サービス収支

$$= \text{輸出額} - \text{輸入額}$$

② 第一次所得収支

国内居住者が海外資産を保有することで得る利子・配当金等から、海外居住者へ支払う額を差し引いた収支

③ 第二次所得収支

海外との間の「対価を伴わない資金の提供」に関する収支
(例)

① 途上国に無償で医薬品を輸出

② 対外援助

経常収支

- Aさんの例だと,
 - パソコン購入による海外への代金支払いは に含まれ,
 - アプリ販売による海外からの代金受取は に含まれ,
 - 外貨預金の利子は に含まれ,
 - 海外の被災地への寄付は に含まれる

貿易・サービス収支

- 貿易・サービス収支 (trade surplus)
⇒ 内閣府作成の「国民経済計算」における「純輸出」に対応。
- 「サービスの貿易」の例：
 - ①
 - ②
 - ③

貿易・サービス収支

- 国民経済計算の恒等式:

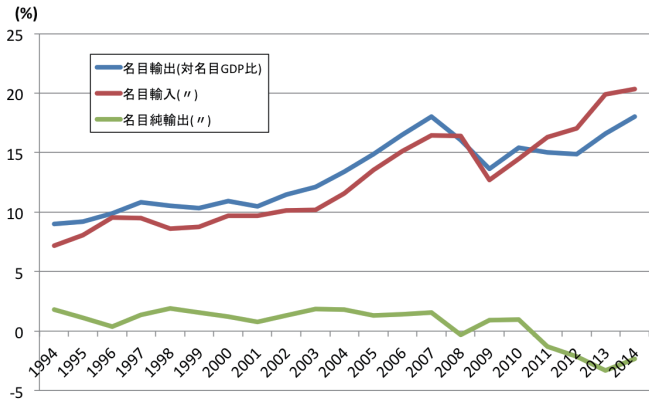
$$GDP = C + I + G + NEX$$

ここで, NEX が純輸出. それ以外の変数説明や式の導出過程については講義資料を参照.



- ① GDP に占める割合は?
- ② 長期的にどのように推移している?

輸出, 輸入, 純輸出の対名目 GDP 比の推移



(出所) 内閣府 「国民経済計算確報」

(*) 財務省の「国際収支状況」からも同様のデータが入手できる。

貿易・サービス収支

- 傾向として, 以下の3つがあげられる.

①

②

③

第一次所得収支

- 第一次所得収支は, さらに以下の2つに大別:

- ① 証券投資収益 … まさに前述の A さんの例. より一般的には,

海外の金融資産保有によって国内居住者が得る利子・配当受取

– 国内の金融資産を保有している海外居住者への利子・配当支払

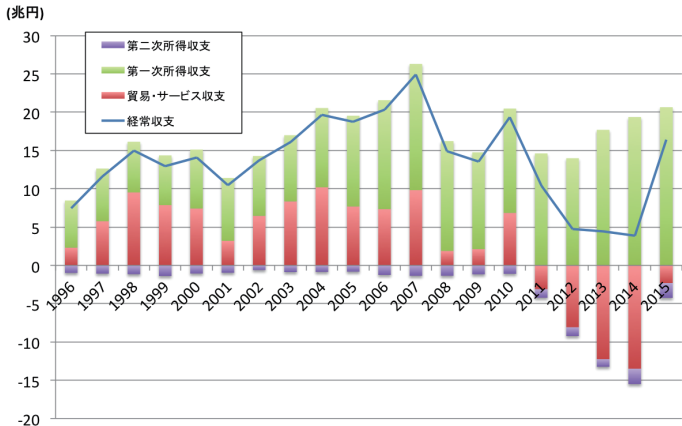
- ② 直接投資収益 … 日本に本社を持つ T 社とアメリカに本社を持つ F 社を考える.

- 両者とも他方の国に子会社を置いており, 親会社と資金のやり取りをしているとする.
- このときの日本にとってのこの値は次のようになる:

└ 経常収支

└ 経常収支の推移

経常収支と経常収支を構成する各収支の推移



(出所) 財務省「国際収支状況」

経常収支

- 傾向として, 以下の3つがあげられる.

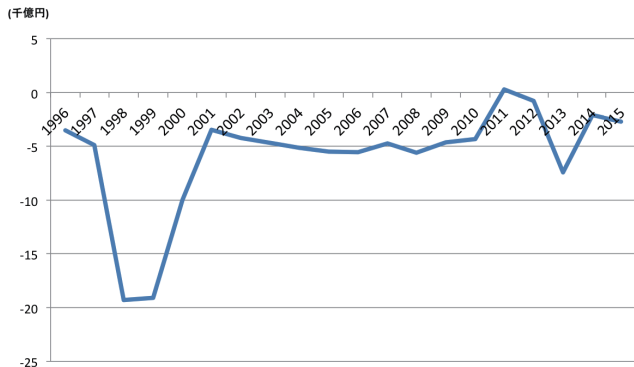
①

②

③

経常収支の話はここまで

資本移転収支の推移



(出所) 財務省「国際収支状況」

(*) 2011 年以外はマイナスの値

Aさんの例 再掲

- ① 海外製のパソコンを 20 万円で購入 .
- ② そのパソコンで有料アプリを開発 ⇒ 売上の内 30 万円は海外からの売上

⇒ 収支としては に分類

- ③ 同時に外貨預金もしていて, 円に換算して 2 万円分の利子所得

⇒ 収支としては に分類

- ④ アプリの売上のうち, 20 万円分を新たに外貨預金
⇒ 収支としては ???

- ⑤ 海外の被災地に寄付

⇒ 収支としては に分類

金融収支

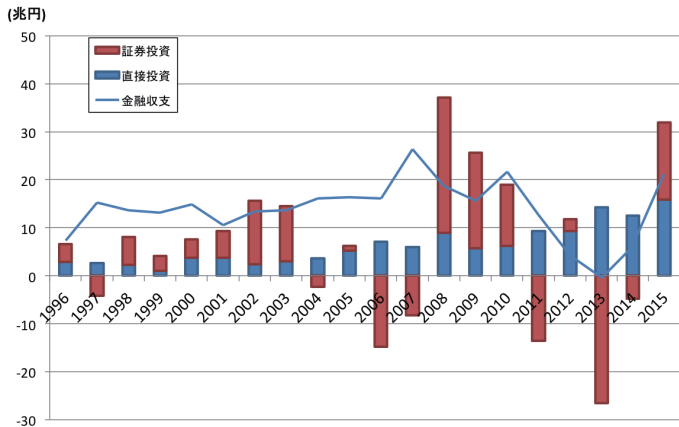
- 金融収支: ある一定期間の新規の海外への投資によって生まれる資金のフローを計上する収支. より具体的には

国内居住者の海外資産購入 − 海外居住者の国内資産購入

で定義され, この値がプラスであれば黒字, マイナスであれば赤字となる.

- 主な項目:
 - ① 証券投資
 - ② 直接投資
 - ③ 金融派生商品購入
 - ④ 外貨準備

金融収支の推移



(出所) 財務省「国際収支状況」

経常収支と金融収支

- 経常収支と金融収支は
 - ① 経常収支: 貿易や資産保有を通してどのくらいの資金が海外から入ってくるか? についての収支
 - ② 金融収支: 新たな資産購入を通して対外資産がどのくらい増加するか? についての収支
- 両者は恒等的に等しい. 導出は講義資料を参照.
- これは, 一国単位で見れば,となることを意味している.

この恒等性の直感

- Aさんの例 再々掲:
 - ① 海外製のパソコンを 20万円 で購入.
 - ② そのパソコンで有料アプリを開発 ⇒ 売上の内 30万円 は海外からの売上
 - ③ 同時に外貨預金もしていて, 円に換算して 2万円分 の利子所得
 - ④ アプリの売上のうち, 10万円分 を新たに外貨預金
 - ⑤ 海外の被災地に 1万円 寄付

直感

- 計算すると, この A さんは, 日本円にして
 - ① $30 - 20 = 10$ 万円分の外貨を貿易で稼ぎ,
 - ② 外国の預金から 2 万円分の外貨を利子所得で稼ぎ,
 - ③ 1 万円を無償で提供した (-1 万円稼いだ)

⇒ A さんだけで見た経常収支は, 円換算で 11 万円の黒字.
- 一方で, A さんの新たな外貨預金は 10 万円. すなわち, 1 万円分は国内の金融機関で日本円に交換した.

⇒ A さんだけで見た金融収支は, 10 万円の黒字.

従って, ここだけを見れば, 経常収支と金融収支は不一致.

直感

- NOTE: 国内の金融機関で日本円に交換 $\Leftrightarrow$ 金融機関がドルを引き受けた
- その金融機関がすること：以下のどれか
 - ①
 - ②
 - ③

いずれのケースにおいても，合計すれば経常収支＝金融収支が成立する．

ここまでのまとめ

- 国際収支統計とは, 一定期間における海外との (1) 財・サービスの取引や (2) 資産の取引などに伴う資金循環を計測したものである.
- 国際収支統計の項目として
 - ① 経常収支: 財の貿易による代金や, 資産保有によって得る所得を計上した資金フロー
 - 貿易・サービス収支
 - 所得収支 (第一次, 二次)
 - ② 金融収支: 対外資産の純増/純減
 - ③ 資本移転収支
- 経常収支と金融収支の間には恒等的な関係がある.